

# チェルノブイリ30周年バルト諸国訪問代表団に田中重光さん(長崎の被爆者)派遣募金にご協力ください。



被爆70年の運動の成果の上に、日本原水協は、今年の運動方向として、世界の市民社会の運動と協力し、被爆者とともに被爆体験と被爆の実相、核兵器全面禁止・廃絶の声を広げることがを提起しました。代表団派遣は、その海外での実践です。

チェルノブイリ事故30周年にあたり、チェルノブイリ被害者救済のためのリトアニア医療基金「われらの海岸」のよびかけにこたえ、日本原水協は、2016年5月5日～11日(予定)、福島の前代表や広島・長崎の被爆者、平和活動家から成る代表団をリトアニアとラトビアへ派遣します。

チェルノブイリ事故の際、多くの青年が汚染除去に動員され被ばくし、今も苦しんでいます。

リトアニアではその30周年の記念式典(5月6日)、原爆展、集会、自治体・政府関係者との面会などが計画され、ラトビアでも原爆展が行われます。

また、両国ともに現在はNATO加盟国として、アメリカの核使用戦略に組み込まれています。代表団は、市民との対話と被爆証言、原爆展を通じて、核兵器の廃絶の世論を高め、「核の傘」と軍事同盟の危険、原爆ゼロと被害者救済の取り組みについても対話と討論を広げます。

## 田中 重光さん プロフィール

1940年 出生  
1945年 4歳10か月、爆心地より約6kmの西彼杵郡時津村(現在時津町)の自宅で被爆。  
1957年 父、肝臓がんで死去。  
1959年 高校卒業、国鉄の就職。労働運動、平和運動に参加。  
1985年 訪英、被爆の実相を訴える。  
1986年 国鉄分割・民営化にて和歌山に転勤  
1999年 退職、帰郷。被爆の継承運動に参加。  
現在、長崎原爆被災者協議会理事、相談員。  
矢の平支部長 海外での証言活動5回  
趣味 山登 家庭菜園 カメラ等

## 代表団の主な日程

5月5日 日本出発  
5月6日 リトアニア国会でのチェルノブイリ30周年記念式典  
5月7日～8日  
チェルノブイリ汚染除去作業員と会議、学校訪問、自治体・政府関係者と面会  
5月9日  
ラトビアでの原爆展、チェルノブイリ汚染除去作業員・医療関係者と会議、政府関係者と面会  
5月11日日本到着

## 田中重光さんの思い

71年前、長崎に投下された原子爆弾は、一瞬にして長崎の町を廃墟と化し、火の玉と共に蒸発、焼かれ飛ばされ、放射線は被爆者の身を切り裂きました。原爆の後障害、原爆症、貧困、偏見、差別に苦しみ、自ら生命を絶った人もいます。その中の一人、私の中学校の恩師で被爆詩人の原口喜久也さんがいます。

白血病になり入院中に抜け出し、原爆資料館の中で核実験に抗議の自殺をしました。核兵器は「人間らしく生きることも、死ぬことも許さない」絶対悪の悪魔の兵器なのです。核兵器の使用は人道に対する最大の犯罪なのです。

アメリカは苦しむ被爆者を一切治療せず、プレスコードを敷いて、惨状を覆い隠し朝鮮戦争やベトナム戦争などで核兵器の使用を画策しましたが、世界の反核平和を求める人々はストックホルムアピール署名運動によって断念させました。

被爆者の願いは①再び被爆者をつくらせない、核戦争反対、核兵器全面禁止。②国家補償に基づく被爆者援護法の制定③全ての戦争被害に対して、国としての謝罪と償いをする事です。

安倍内閣は「戦争できる国づくり」と福島原発の事故はなかったかのよう、原発再稼働を押し進めています。国民の願いはいのちとくらしを守ることです。私たちの子どもや孫を戦争に取られてはなりません。正義は我々の手の中にあります。

今回のリトアニア訪問は1985年8月初めてのイギリス訪問から31年になります。現在、核兵器なくせの声は大きなうねりとなっています。この声をもっと大きく強くなるよう、広島・長崎の惨禍、福島を再び繰り返させないため、被爆者は最後の力を振り絞って、皆さんと共に頑張る決意です

原水爆禁止長崎県協議会 〒850-0035 長崎市元船町5-11-402

2016/3/22 NEWS

TEL 095-895-9106 FAX 095-895-9102